平成２６年度第２回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日　　時：　平成２７年３月１２日（木）１０時００分から１２時００分
場　　所：　墨田区役所１２階　１２２会議室
議事内容：　１　開　　会
　　２　福祉保健部長あいさつ
　　３　『墨田区地域福祉計画』の進捗状況報告について
　　４　『墨田区地域福祉計画』の改定について
　　５　閉　　会

【配布資料】
墨田区地域福祉計画　　優先的取り組み内容
地域福祉計画 の改定について（案）

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏　　名	所　　属	出欠席
山　口　　稔	関東学院大学教授	出席
市　川　菊　乃	墨田区医師会会長	欠席
湯　澤　伸　好	東京都本所歯科医師会会長	出席
濱　野　明　子	墨田区薬剤師会会長	出席
吉　田　政　美	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘　司　康　男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野　原　健　治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	欠席
沼　田　典　之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
小　林　　実	はなみずき高齢者在宅サービスセンター長	出席
今　牧　　茂	墨田区社会福祉事業団事務局長	欠席
深　野　紀　幸	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
椎　名　美恵子	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石　鍋　光　子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊　藤　　林	個人ボランティア	出席
本　宮　秀　明	全国福祉情報研究会３ＳＵＮネット墨田支部	出席
井　上　久　子	録音グループかりん会長	出席
齊　藤　宮　子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外　川　浩　子	ＮＰＯ法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
大　滝　信　一	墨田区福祉保健部長	出席
関　口　芳　正	墨田区子ども・子育て支援担当部長	出席
中　橋　　猛	墨田区保健衛生担当部長	出席
小久保　　明	墨田区区民活動推進部長	欠席

事務局

厚生課長　　池田　善久
障害者福祉課長　　小板橋　一之
高齢者福祉課長　　栗林　行雄
区民活動推進課長　中山　賢治
厚生課　　本田、山﨑、柴田

１　福祉保健部長あいさつ

本日は２点の議題。特に来年度予定している地域福祉計画の改定について、概要を説明するので、意見をいただきたい。また、４月から介護保険制度が大きく変わり、地域のボランティアの役割も増していく。地域のボランティアの方をどれだけ掘り起こしていくことができるかが、これからの行政課題になるので、協力をお願いしたい。

２　事務局からの報告（厚生課長）

本日は、野原会長が欠席のため、山口副委員長に、会長の職務を代理していただく。
本日は、墨田区医師会会長の市川委員が欠席で、墨田区医師会事務局から１名、また、来年度の計画改定の支援業務を委託する予定の株式会社地域総合計画研究所からも１名の傍聴者がいる。

３　『墨田区地域福祉計画』の優先的取り組み内容の進捗状況報告について

（１）高齢者福祉課長、社会福祉協議会事務局長、厚生課長より資料の内容について説明

（２）委員からの質問・意見
＜事業番号１について＞
○みまもり相談室の設置前後の顕著な違いがあれば教えてほしい。
→高齢者を訪問して、実態を把握できた。地域とのつながりも調査。町会、自治会と一緒に見守り活動を展開できるようになった。（高齢者福祉課長）

○今後、プラットホームづくりの核になるのはみまもり相談室なのか、それとも厚生課や社会福祉協議会なのか。社協が本来はもっと中心になって活動しなければいけない。ここ１、２年でどこが中心になるのか、目途をつける必要がある。どこを中心にして輪になればいいのか、わからない。
→プラットホームの推進（関係者が集まれる場づくり）として、地域福祉・ボランティアフォーラムを開催している。多方面の団体がより素早く集まれる場や、そのような体制を作っていこうという取組み。（厚生課長）
→地域のことを専門に考える団体が必要。町会、みまもり相談室などから人が集まり、会合を持てるような体制が必要。

○結果だけではなく、どのような成果があがったのかが大事。成果がわかると、改定の方向性も見えてくる。プラットホームの位置づけを考えていく必要がある。

＜事業番号２について＞
○小地域福祉活動については、質的な評価もできており、成果を上げているといえる。

＜事業番号３について＞
○量的な目標設定と質的な目標設定があり、後者についは、結果で評価する方法と、プロセスで評価する方法がある。具体的に「～をした」「～があった」ということ自体も評価になり得る。

○地域福祉施設というのがわかりにくい。住民目線では、なにかあったときに駆け込めて、問題解決につながるような場所が町会ごとに欲しい。たとえば町会会館などに民生委員が詰めるなど。区がそのような核をつくるために積極的に行動してほしい。
→今後の課題になると思われる。

○積極的な地域福祉施設にシールを配るなどして、数を把握していけば、目標値は設定できるのではないか。
→高齢者、障害者、子ども等のみまもりについて、そのようにして把握していく取り組みもある。（厚生課長）
→核になるのはそれぞれの総合支援センターで、子どもについてはすみだこども１１０番などを行っている。
→事業目標を明確にする必要がある。包括的なものなのか、個別の見守りなのか。他にも目標が具体的でないものがあるので、改定時に具体化していきたい。

○計画策定したときに、各団体の目標を立てて推進していくことにした。本来は、それぞれの団体の取り組みがどうだったのかを評価する必要がある。行政と社協の事業だけを議論しても不十分。質的な評価をヒアリングしていくのは大変な作業だが、来年度はその掘り下げが必要となる。

＜事業番号４について＞
○ボランティアスクールには、手話も含まれているか。
→手話自体を学ぶという場ではなく、たとえば手話通訳の方の体験談を聞く、というような内容。学校の先生からの要望で、そのような話があれば、やっていきたい。
→以前はいくつかの小中学校で手話を学んでいたが、なくなってしまった。若い時の方が習熟も早いので、そのような場をつくっていきたいが、提案が来ない。
→福祉教育プログラムの中で手話が排除されているわけではないと思う。

○点訳をやっており、ボランティアスクールにも協力している。以前はクラブ活動でも手話をやったりしていたが、熱心な先生が異動すると続かなくなってしまう。ボランティアスクールは授業の１時間だけだから、習熟の場にはならないという問題がある。ただし、ボランティアセンターも手一杯なように見受けられるので、難しいところもあるのかなと感じている。

○ボランティアスクールの講師が、どのように選ばれているか、見えないのが問題。プラットホームがあれば、講師ができる団体と、講師を求める団体がつながることができる。
→ネットワーク、プラットホームをつくり、全体に見える形にすることが大事。
→理解ある先生が少なくなっていて、ボランティア推進校も、応募が少ない状態が続いている。企業も、関心が低い。

＜事業番号５について＞
○コーディネーターの育成というからには、どんな人を何人育成したかという成果が必要。
→これは、地域の活動者の「質」を上げようという取組み。高齢者問題に関心が行きがちなので、障害について学ぶ場にした。
→呼びかけてもやってくれないというが、やってもらうためどうするかを考えるのが計画。浴場組合での精神障害者（の就労）の受け入れも、信念をもってやってきてようやく７か所になった。強い思いをもってもう一歩踏み込んでいかないとだめ、待っているだけでは進まない。
→やる本人に熱意を持たせるには、時間がかかる。

○コーディネーターは何人くらいいるのか。
→資格や認定に重きを置いていない。小地域福祉活動の核になる人など、だいたい１００人くらいが参加している。
→資格証など、目に見えるものが必要なのでは。

○成果としては「こういう熱意が生じた」「こういう共通認識が持てた」「こういう知識が身についた」「今後に向けてこういう糸口が見えた」というのを知りたい。

＜事業番号６について＞
○受講している方の年代は？
→リタイアした方、５０代以上の方が多い。
→理想の姿としては、働き盛りの方にやってもらうべきと思う。
→講習が平日であること、実際の業務で本人の要請などで急に動ける必要があることなどから、働いている方は現実的には難しい。
→理想の姿を見据えて、平日の夜に講習するなど、間口を広げるようにしてほしい。
→ニーズの見えない中、現在の形で始め、続けてきている。ニーズを見ながら、間口を広げることは今後の課題としたい。（厚生課長）
→担当するのが１人か２人なら、急な要請には有給休暇で対応できる。そういうことのしやすい社会にしていくのが行政の役割。
→（後見人になる前の段階で）生活支援員として熱心にやる中で、関係を強くしていける。時間的な余裕がないと難しい。

＜事業番号７について＞
○聴覚障害者は普通の介護施設に入ると孤立しやすい。成人の障害者向けの介護施設、集まる場をつくる計画はないのか。
→グループ活動の場（聴覚障害者）などはそれぞれに取り組んでおられると思う。区としては、重度の方の生活の場を作るという施策を、優先している。（障害者福祉課長）
→特定の障害に特化したグループホームを区が作るのは、現状では難しい。具体的な計画があれば、行政としてもできる範囲で支援を考えていきたい。

＜事業番号８について＞
○ボランティアフォーラムに参加した方はどういう世代のどういう方か？
→２０代から相当の高齢の方まで、活動している方、興味のある方が参加。活動のきっかけになったと思う。（厚生課長）
→「ふりかえりシート」でどういう成果があったか、次回に総括してほしい。

４　『墨田区地域福祉計画』の改定について
（１）厚生課長より資料について説明

（２）委員からの質問・意見
○ワーキンググループの参加資格は？
→ワーキンググループは、庁内の検討作業の中で作っていくもので、福祉保健部各課の職員を中心にしたチームを考えている。（厚生課長）

○後期なので、具体的にこれだけは達成するという目標（例えばプラットホーム）を立ててはどうか。
→現在も優先的取り組みを掲げている。後期計画もそのような形を考えている。（厚生課長）

○できるだけ数値目標を立て、どこまで達成できたかわかるように。
→数値目標による評価、質的な評価のいずれにせよ、成果がしっかりとわかるようにしていきたい。（厚生課長）

５　まとめ（山口副会長）
＜目標の設定について＞
○数値目標はわかりやすいが、欠点もある。短期的な目標しか出せず、中長期的な目標が欠落することが多い。結果だけしか現れず、プロセスが重要なのに、プロセスが無視される場合があるなど、

わかりやすい反面、難しい点もある。

○定性的な目標（質的な目標）も、出せないことはない。どういう結果を求めるか、記述することで設定できる。

○数値目標、質的な目標を組み合わせること」「プロセス目標を設定すること」が必要。

＜改定の進め方＞
○視点１：評価して、改善点を見つけていくという、オーソドックスなやり方。

○視点２：制度、社会情勢などの外部環境の変化に、対応するような見直し。

○視点３：地域課題の把握による見直し。アンケートの配布では、広く浅くになって、顔が見えてこない。質的調査が必要。丁寧な調査をしたいというのが事務局案だと思う。

＜特徴のある見直し＞
○墨田区としての特徴ある見直しとは、「住民の意見を丁寧に聞く」「計画に反映させる」「どこに反映されたのかがわかる」ということ。作業の労力は大きいと思うが、これを意識しながらやり方を探っていけばいいのかな、と思う。

○読んだときに理解できる、親しみが持てる、具体的な活動が見える、という計画に。

○誰に、何を、どのようにヒアリングすればいいのか、事前の検討が大事。委員の方の協力、対象者の紹介も必要になる。

＜重点事業の絞り方＞
○どのような視点で設定するか。いろいろなやり方がある。推進協議会で議論していきたい。